



↑八尾市教育委員会からの要請を受け、監修を手掛けた「アレルギー疾患対応マニュアル」。同市内の養護教諭らの連携により生まれたものだ

←診療のお礼に子どもたちから贈られた絵画の数々。常に子どもと家族に寄り添う姿勢が、厚い信頼感を生み出している



診察室内の全景。この場で患者・家族との信頼関係を深めてきた



小児科診療所ではあまり見られない超音波診断装置（エコー）。病名を特定する際の大きな武器となっている



看護師、受付事務員とともにコミュニケーション力は抜群。密な情報共有で、一丸となって診療をサポートしている



医療法人 木村小児科  
大阪府八尾市東本町2-6-7  
TEL: 072-999-5666  
URL: http://kimura-ped.com/  
診療科目: 小児科、アレルギー科



同院に隣接している自宅の庭には、父の時代に当時の患者から贈られた「医は仁術なり」と刻まれた石碑がある。「毎朝、この碑を見て、新たな気持ちで診療にあたっています」(木村院長)

## 医療法人 木村小児科

(大阪府八尾市)

# エコー検査や育児栄養相談など 充実のプライマリケアで患者に寄り添う



「一人ひとりの患者さんをきっちり診療すること。開業区にはこの姿勢が欠かせません」と語る木村三郎院長

### 注目POINT!

- ① 早朝6時からの電話予約システムを導入  
午前7時からホームページ上でも予約が可能。電話との2本柱で患者と家族の負担となる待ち時間を大幅に短縮。
- ② 超音波診断装置（エコー）で綿密に初期診断  
小児科では珍しくエコー検査を駆使し、病名を的確に特定。症状に応じて迅速に病院の専門医を紹介している。
- ③ 管理栄養士を招き、個別の育児栄養相談を実施  
患者家族のニーズに応えるため、マンツーマンで1人当たり約30分かけて、除去食などの食物アレルギー対策を指導している。

### 地域に根付いた診療所を継承 人間関係重視の診療を守り抜く

1992年2月に継承・開院した医療法人木村小児科。大阪府八尾市内にある同院は、木村三郎院長が内科医だった父親から受け継いだものだ。「父が築いた患者さんとの深い人間関係に共感と尊敬の念を抱いていました。地域に根付いた診療所をそのまま閉鎖するのは忍びないと思い、跡を継いだのです」

院名を変え、小児科とアレルギー科を標榜して再スタートを切った後も、父親が築いた信頼関係を守ってきたことで来院患者は増え続け、以前は「夜の10時、11時ごろまで診療を続けていたこともありました」という。しかし、「診察開始時間前の早朝から順番取りで並んでおられたので」という理由から、現在では完全予約制の導入で患者と家族の待ち時間の負担を軽減している。

仕事と家庭の両立に苦勞する親に配慮し、自動音声システムによる電話予約は午前6時から開始。7時からネット上でも予約を受け付けている。ホームページでは

空いている時間帯を示し、患者の分散にもつなげている。

予約制の導入は事前にカルテを用意するなどの下準備にも役立つっており、木村院長は「効率的に診察できるようにになりました。特定の時間に患者さんが集中することもなく、スタッフ全体で余裕を持って患者さんに対応しています」と、説明する。

木村院長が診療時に心がけているのは、綿密な初期診断だ。そのため、超音波診断装置（エコー）を積極的に活用する。乳幼児では、初めて発熱した場合、膀胱尿管逆流症に伴う尿路感染症などを鑑別するため、「エコー検査を行い原因の特定に努めています。エコーを導入している小児科は少数だと思いますが、当院では昼間遺尿でも必ずエコー検査をします」と話す。

エコー検査はほかにも、先天性腎尿路異常や腸重積症などの診断に有効。こうした取り組みにより病名をいち早く特定し、症状に合わせて、迅速に専門医に紹介している。「開業医の役割は、患者さん一人ひとりをきっちり診療すること。そのためには虫の目・鳥の目などさまざまな視点から見ること

とが必要だと考えています」と、診療の基本方針を説明する。

### 看護師、受付事務員との連携でアレルギー疾患の予診に尽力

診療において木村院長がもう一つこだわっているのが、アレルギー疾患への対応だ。同院には乳幼児の急性疾患、アレルギー疾患の患者が多い。特に食物アレルギーでは、アナフィラキシー反応を起こすなど緊急性が高いものもある。

診療の優先度を見極める必要があるため、「看護師や受付事務員と情報共有を密にしながら、予診に力を尽くしています」と強調する。患者の親から電話を受けた際には受付事務員が「ゼーゼー言っていないか、嘔吐をしていないか」などと質問して確認するほか、来院した患者にはまず看護師が付き添って症状を判断し、必要に応じて優先的に診療に回すという仕組みだ。

同院のスタッフは、看護師3人と受付事務員6人の計9人。医師は木村院長だけが、「看護師はもちろん、受付事務員も全員、日ごろから私の話をよく聞くなどして

医療知識を自然と身に付けてくれています」と、笑顔を見せる。多忙を極める木村院長をスタッフらが一丸となってフォローしている格好だ。

また、患者家族のニーズにより応えようと、院内では毎月1回、外部から管理栄養士を招いてマンツーマンで1人あたり30分の育児栄養相談を実施。除去食などの知識がない若い母親らに好評だ。この取り組みには、「個々に合わせて指導するので、安心して育児に取り組んでほしい」という木村院長の願いがこもっている。

木村院長の活動は、院内だけでなくとどまらない。八尾市内の中学校校医を務めている関係から、昨年には同市教育委員会教育長の要請を受けて「アレルギー疾患対応マニュアル」の監修を手掛けた。教育現場との連携によって生まれた賜物で、各方面からの評価も高い。

木村院長は「ぜんそくなどアレルギー疾患は、症状の変化で呼吸困難などの重篤な状態に陥る危険性があります。今後も開業医、校医として地域の子どもたちを守る活動に努めたいと思います」と、展望を力強く語る。